

知的財産活動のご紹介

2016年9月
富士通株式会社

ビジネスと知的財産戦略

デジタル革新の時代

- ビジネス変化への迅速な対応に向けた最先端ICTの利活用
- 企業・業種の枠を超えた協業・共創

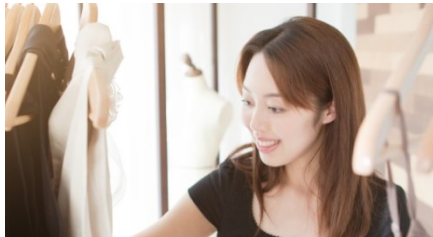


デジタル革新に向けたお客様との取り組み

- お客様との共創によるエコシステム作りを推進
- 300件超のPoC/PoB※を実施中

※ PoC : Proof of Concept (新しい技術や概念の実証)
PoB : Proof of Business (事業の実証)

PoC/PoB案件の上位8分野



顧客分析/
マーケティング
約60件



交通情報/災害対策
約40件



商品の
トレーサビリティ
約30件



工場の見える化
約30件



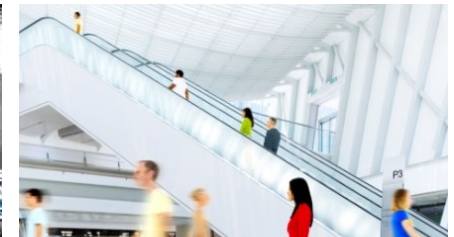
人の見守り
(高齢者/子供等)
約30件



農業/畜産の高度化
約30件



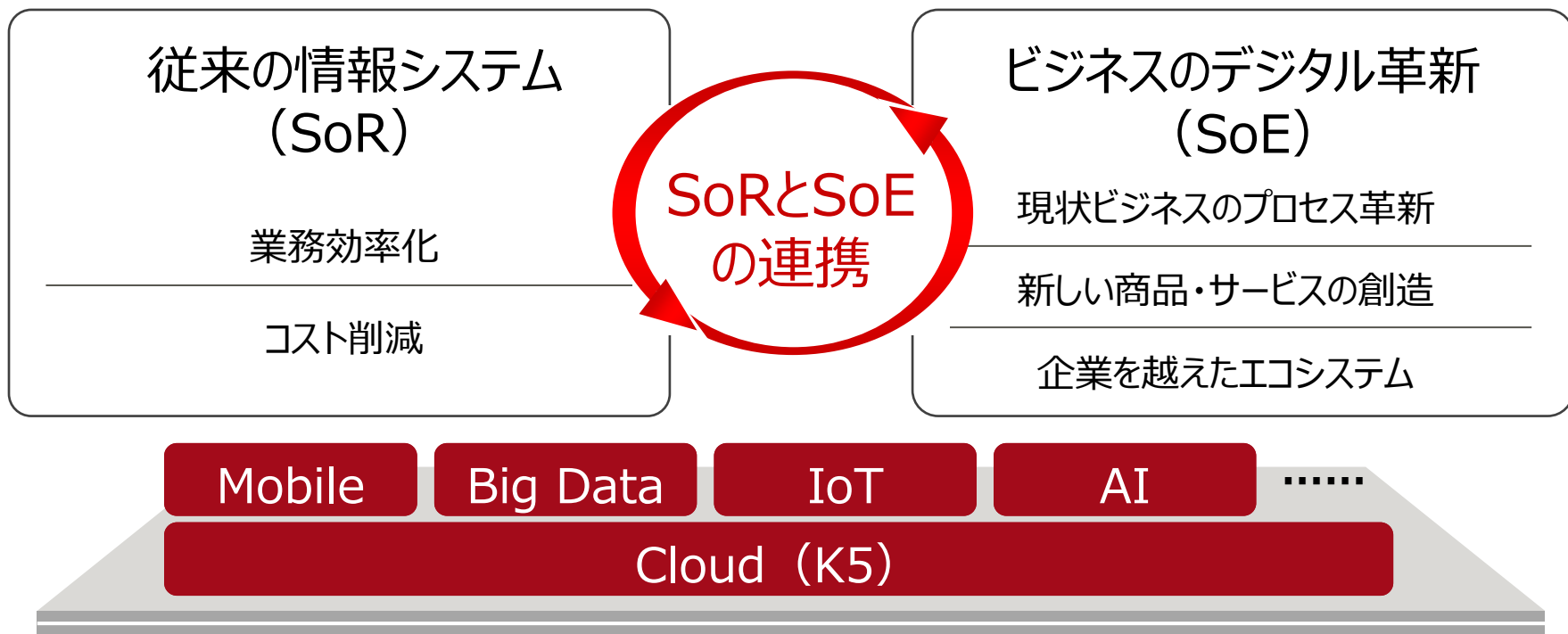
設備の監視/保全
約20件



店舗顧客の動線分析
約20件

富士通の次世代クラウド基盤 デジタルビジネス・プラットフォーム

- お客様のデジタル革新を実現するプラットフォーム
- Cloud・Mobile・Big Data・IoT・AI等の最先端ICTを提供



デジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」

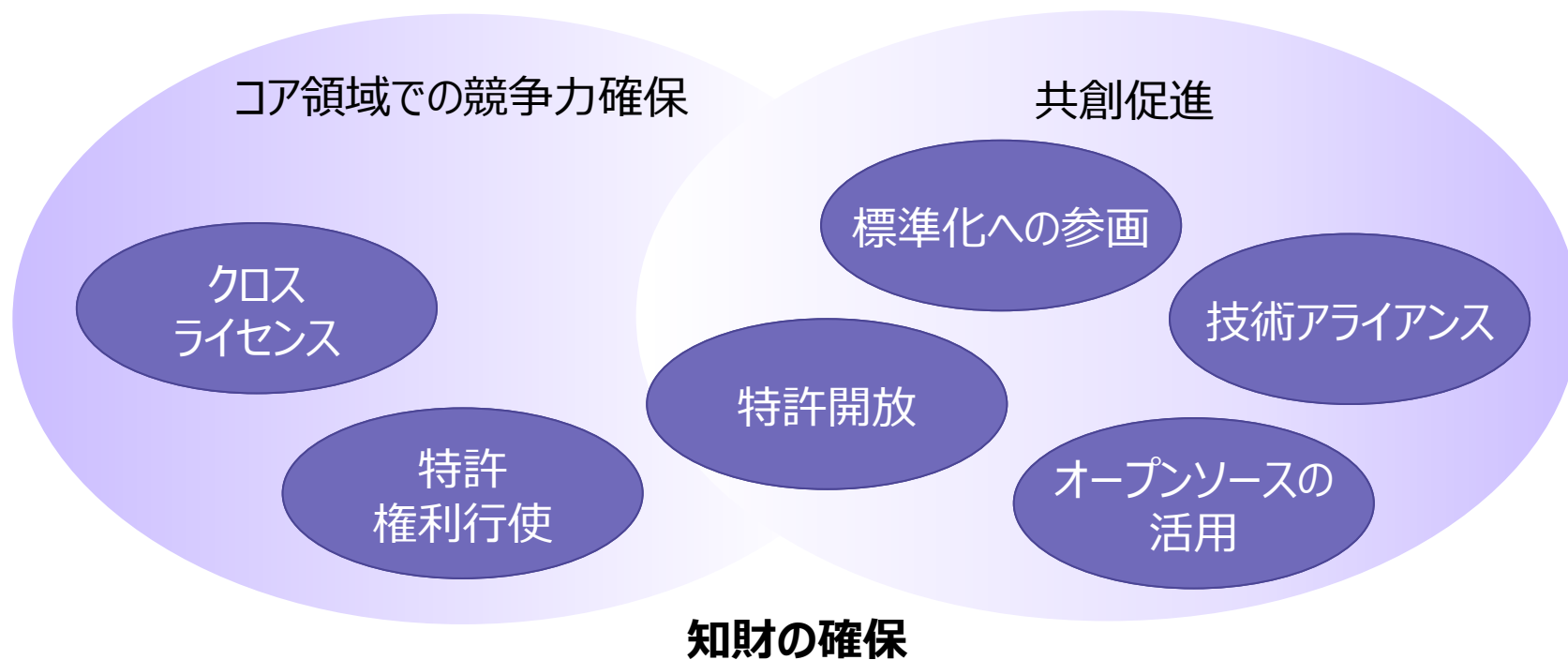
AI : Artificial intelligence (人工知能)
SoE : Systems of Engagement (人、モノなどに関与するシステム)
SoR : Systems of Record (業務処理や記録をするシステム)

(1) テクノロジー企業としての プレゼンスの証明

ビジネス、研究開発等を通じて創
出されたアイデアを知的財産権と
して権利化

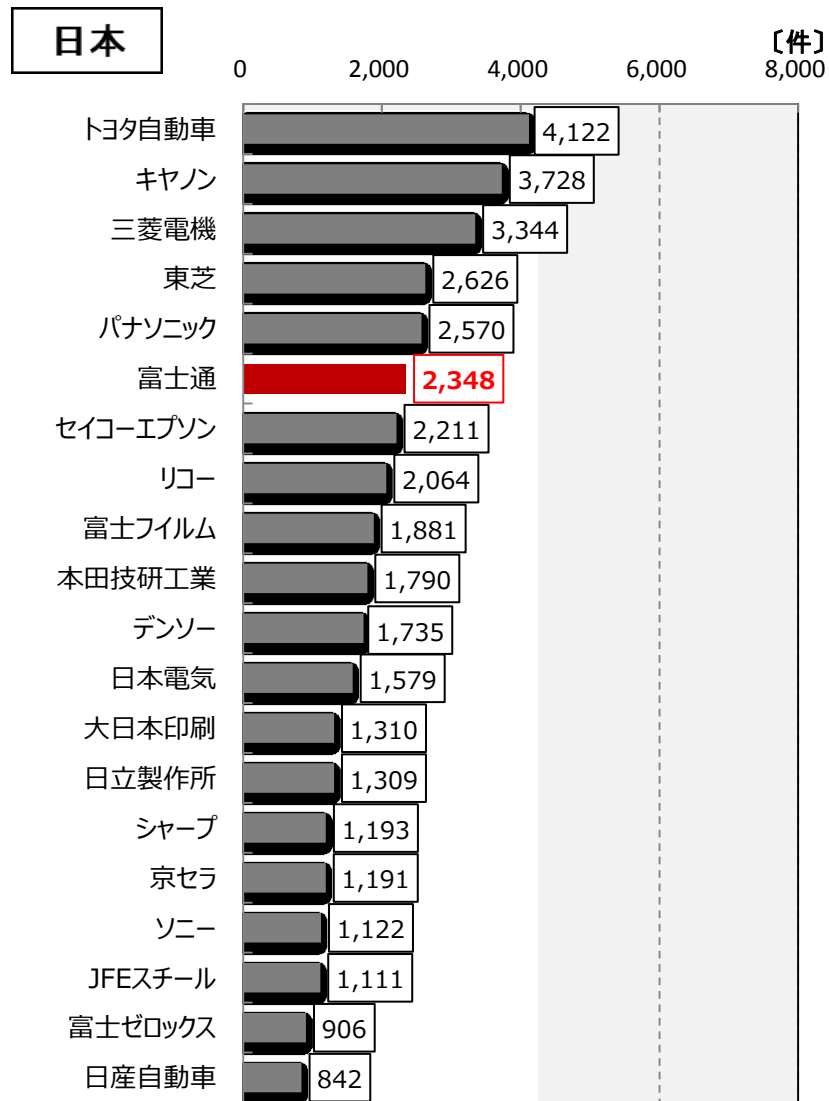
(2) 具体的なビジネスに 価値を提供

更なる事業貢献に向け、全社横
断での活用視野を広げた新たな
知財戦略を策定・展開

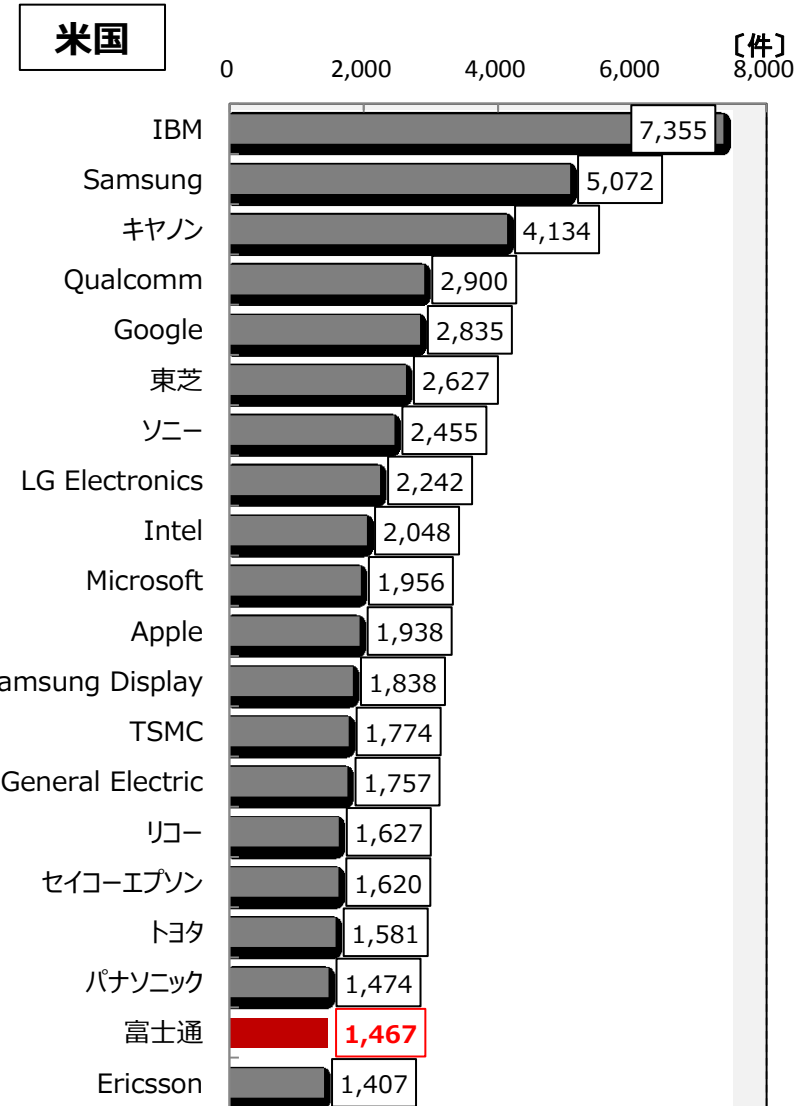


テクノロジー企業としてのプレゼンスの証明

特許登録件数ランキング（2015年）



特許公報発行日 全出願人カント（各社グループ会社含まず）
特許庁公開データによる自社調査



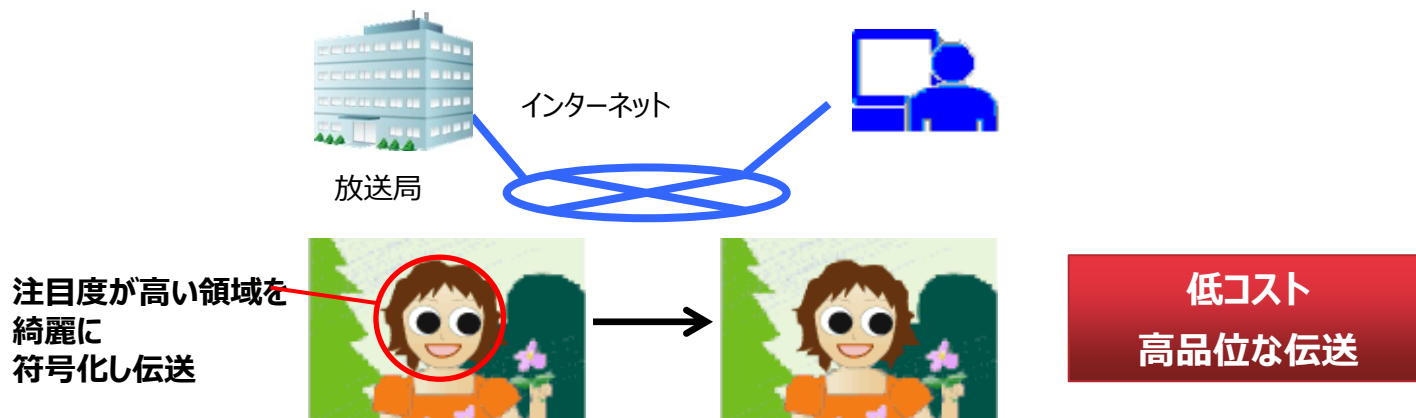
特許公報発行日 全出願人カント
出典: I F I CLAIMS Patent Services社データ

平成28年春の紫綬褒章

■ 富士通研究所社員、中川 章（なかがわ あきら）

「デジタル映像の符号化技術と伝送装置の開発」

高品質を保ったまま低電力でHD映像の情報量を大幅に削減する映像符号化アルゴリズムの研究開発



本開発により、デジタル映像の符号化技術とH.264映像伝送装置を実用化。この装置は世界中の放送局で採用され、民生機器から業務用放送機器までの幅広い分野において、HD映像の普及に貢献しました。代表となる特許は、特許第4454320号「伝送装置、伝送制御プログラム、及び伝送方法」です。

その他の社外表彰（一部）

■ 技術

表彰機関・団体	受賞名	受賞タイトル	受賞者
内閣府	紫綬褒章（平成27年春の褒章）	高集積強誘電体メモリの開発	恵下 隆（富士通セミコンダクター）
経済産業省・文部科学省・厚生労働省・国土交通省	第6回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞 （製造・生産プロセス部門）	ものづくりの全領域をICTで繋ぎ、人と機械の協調生産を実現したノートPC生産方式	佐藤 昌之（島根富士通）、 福間 龍巳（島根富士通）、 山本 基之（島根富士通）、 渡野 佑馬（島根富士通）

■ 特許

公益社団法人発明協会	平成27年度全国発明表彰 発明賞	指向性受音方式に関する発明	松尾 直司（研究所）
公益社団法人発明協会	平成27年度関東地方発明表彰 神奈川県発明協会会長賞（特許第4821723号）	低遅延映像伝送装置	三好秀誠（研究所）、 中川章（研究所）、 数井君彦（研究所）、 木村壽成（富士通九州ネットワークテクノロジーズ）

ビジネスへの価値の提供～知財活動事例～

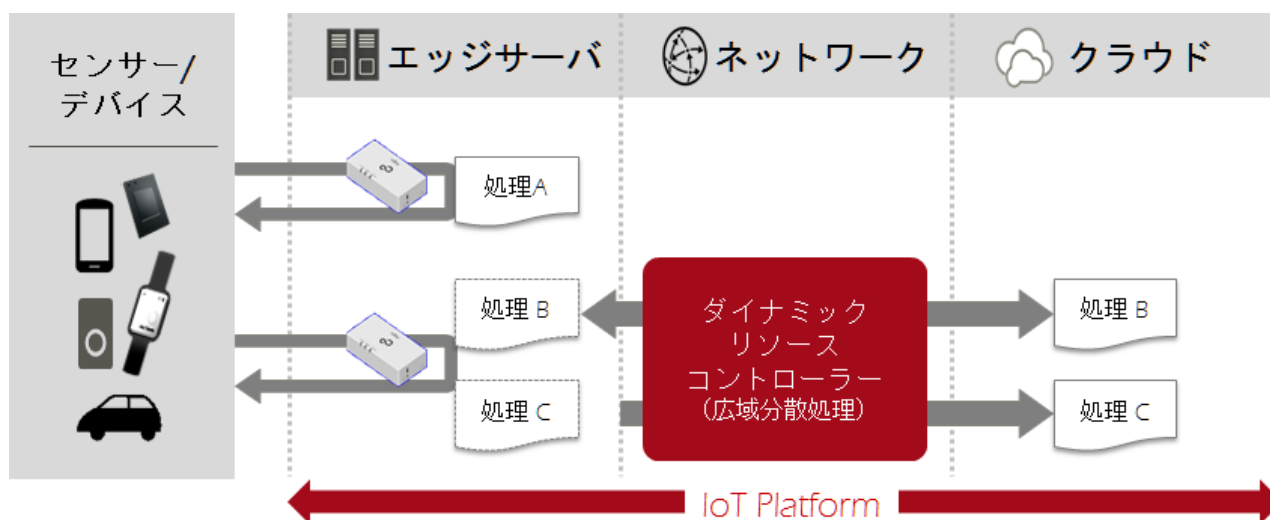
ビジネスモデルに合わせた知財戦略の立案

■ IoT Platform 搭載機能 ダイナミックリソースコントローラ(DRC)

【DRCの特長】

機器やデータ量の増減などインフラに関する変化に追随したアプリケーション処理の最適な分散配備の自動化（大規模なシステムにも適用可能）。

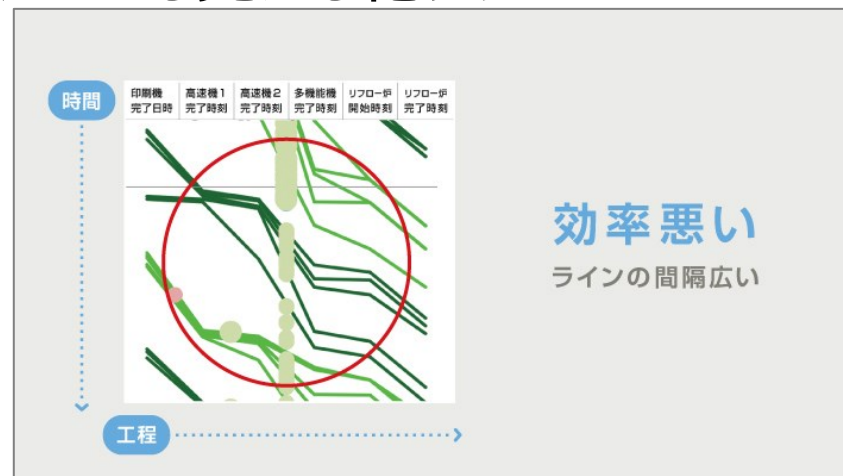
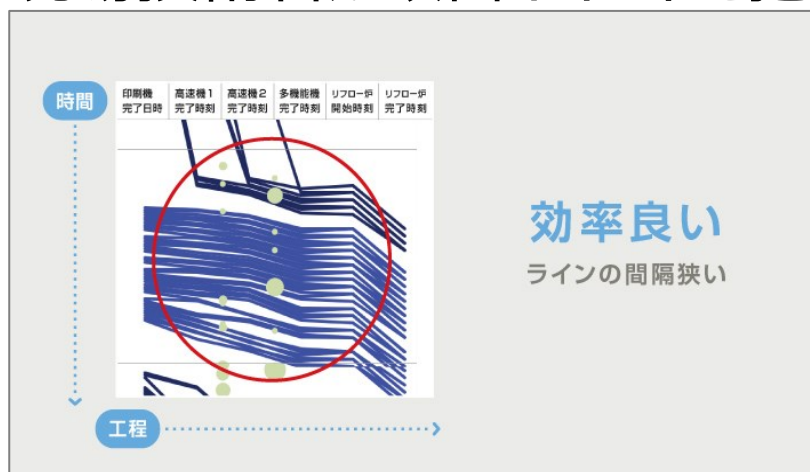
富士通の強みとなるコア領域において積極的に特許出願しました。



プロトタイプ開発段階から有力特許を取得

■ ラインの生産状況を可視化

工場等の生産現場におけるビッグデータを活用
現場技術者が改善ポイントを把握できる見える化ソリューション



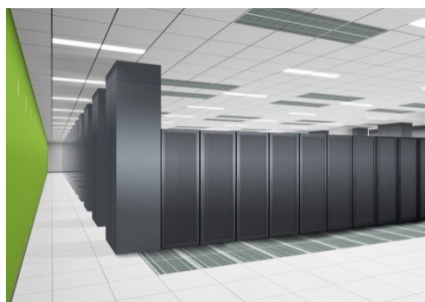
出典：FUJITSU JOURNAL, 2015年4月20日記事) <http://journal.jp.fujitsu.com/2015/04/20/01/>

プロトタイプ開発段階から、知財部門が活動に参加し、新規機能の開示前に必ず特許出願を検討しました。提案資料には特許表示を行って技術力を示しました。組織的な活動により、国内外へ多数の特許出願をしています。

知財の観点から分析・評価

■ 光ファイバー温度測定技術を応用・適用

光ファイバーをセンサーとして使い、室内の温度分布を高精度に測定する技術



データセンター



発電所/化学プラント

光ファイバー温度測定技術を横展開するために、知財部門が作成した分析資料を提供しました。

競合他社のビジネス状況や出願特許の分析を行い、そこから横展開のための課題を導き、新しい商談獲得のための技術アピールにかかわる特許出願をしました。

【4】 画像解析技術を新ビジネスへ

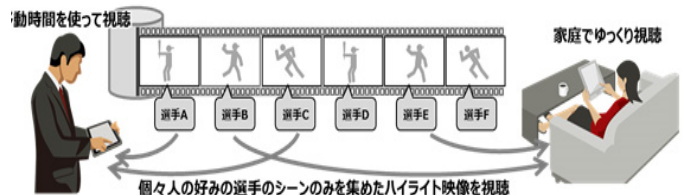
イノベーション促進 コトづくりー

■ プロ野球映像の対戦検索サービス

選手名やホームラン・三振などの打席結果から見たいシーンを瞬時に検索できる技術



富士通の得意な画像解析技術を活用し、お客様と一緒に事業モデルを検討した事例です。本サービスを支える技術について国内外に多数の特許出願を 実施しています。



写真提供元：パシフィックリーグマーケティング株式会社様
© Pacific League Marketing All Rights Reserved

図 対戦検索サービスの利用イメージ図

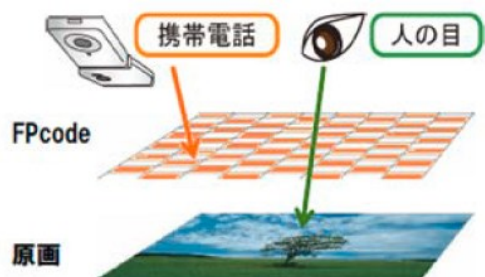
【5】 知的財産マッチング活動

知財を活用した地域貢献

自社で独占する必要のない特許等を開放し、地域企業の新ビジネス創出にも寄与しています。

(株)味の海翁堂様

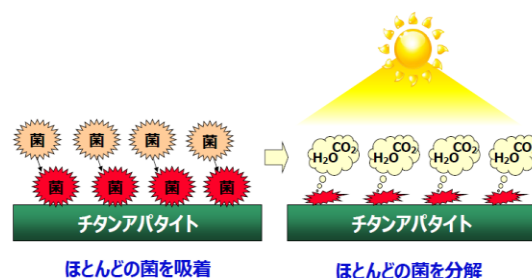
印刷画像へのコード埋込技術



プリント南部せんべい

(株)マック様

光触媒チタンアパタイト技術



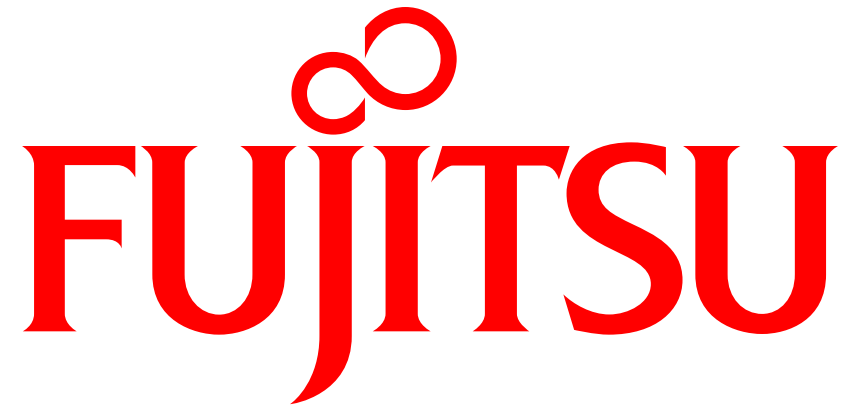
光で抗菌できる包丁

(株)アルコイーエックス様

離床・起床センシング技術



契約調印式（於・筑波銀行様）



shaping tomorrow with you